

井戸平左衛門の頌徳碑を訪ねて①

大田町 石 賀 了

石見銀山が世界遺産に登録されて早一年が過ぎ、連日、日本中から沢山の人が石見銀山を訪れている。

石見銀山で注目すべき点はいくつもあるが、その中で忘れてならない人物の一人が「井戸平左衛門正明」である。

井戸平左衛門は六十歳という、当時ではかなりの高齢で一七三一年（享保一六年）大森代官に任ぜられ、わずか二



▷井戸神社（大森町）

年後には現在の岡山県笠岡市で没している。着任した翌年に遭遇した享保の大飢饉に際して、驚くべき手腕を發揮し、年貢を免除したり、自らの財産や裕福な農民から募ったお金を資金にして米を購入したり、幕府の許可を待たずに代官所の米蔵を開いて米を与えたりしている。そして極めつ

きは、当時薩摩の国で栽培が開始されたばかりで、外には持ち出しが禁止されていた甘藷（サツマイモ）を持ち帰り、その栽培を奨励したことだ。

これらの遺徳を偲んで、井戸平左衛門の頌徳碑が数多く建てられ、大田市久利町の宮本豊さんの調査によると、その数は四百九十基も。島根県内だけでなく、鳥取県や広島県にも及んでいる。

この稿では、頌徳碑の中から一度、井戸平左衛門の偉業を再考してみたいと思う。

第一回でまず紹介しなければならぬのが、頌徳碑ではないが、井戸神社だろう。



◁井戸神社境内の顕彰碑

井戸神社は井戸平左衛門を敬慕して祀るため、明治十二年に創建され、その後組織された井戸神社復興会によって大正三年に社殿が造営されている。もちろん善意を寄せた当広い範囲に広がっていたことは容易に想像できる。

境内の「井戸公顕彰碑」には「(前略) 深い慈愛と至誠責任を貫いた偉大な善政は、千古に輝き今も尚代官様として敬慕して公のみたまをこの地に祀り、その遺徳を永く顕彰している」と刻まれている。

温泉津町福田 佐々木忠子
井田地区社協では、昨年度から地域福祉活動の一つとして「絵手紙運動」を始めました。「地区内の一人暮らしや高齢者の方が、孤立したりさびしい思いをされないよう、絵手紙(はがき)を出すことで励まし合いの輪を広げよう」という呼びかけでボランティアを募りました。当日、公民館に集まったのは、若いPTAのお母さんから七十歳台まで、それにお母さんと一緒に参加した小学生一名を含めた十三名でした。全員が、これまでに絵手紙を書いたこともなく、「雑誌」に載っている作品を参考にしたりしながら、恐る恐る書き始めました。「下手でいい。下手がいい。」を合言葉に、みんなだんだん夢中になってきて、地区内の九十歳以上の人と、六十五歳以上で独居の人合わせて九十三人に、二日ばかりで書いて発送しました。「名前がわかれば返事を書きたい。」という声もありますが、それは

私の一言

心つなぎの絵手紙

温泉津町福田 佐々木忠子

井田地区社協では、昨年度から地域福祉活動の一つとして「絵手紙運動」を始めました。

「地区内の一人暮らしや高齢者の方が、孤立したりさびしい思いをされないよう、絵手紙(はがき)を出すことで励まし合いの輪を広げよう」という呼びかけでボランティアを募りました。当日、公民館に集まったのは、若いPTAのお母さんから七十歳台まで、それにお母さんと一緒に参加した小学生一名を含めた十三名でした。全員が、これまでに絵手紙を書いたこともなく、「雑誌」に載っている作品を参考にしたりしながら、恐る恐る書き始めました。「下手でいい。下手がいい。」を合言葉に、みんなだんだん夢中になってきて、地区内の九十歳以上の人と、六十五歳以上で独居の人合わせて九十三人に、二日ばかりで書いて発送しました。「名前がわかれば返事を書きたい。」という声もありますが、それは

抵抗があるので、名前の頭文字を彫った消しゴム印を押しています。

だんだん参加者も増え、小学校三・四年生も加わったりして、七月、十一月、三月と三回絵手紙を送りました。

「——子供達とも遠く離れ、近所にも子供さんの声も聞けず、四月になっても何事も変わらない日が始まることでしょう。いいえ、何も変わらない日、今日の私には最高の日でした。昨日は楽しい絵手紙を頂き、本当に嬉しゅうございました。」
今は、絵手紙を書くことが病み付きになり、絵手紙グループの人同志や、友達への絵手紙通信の輪が広がっています。

○花を見る、よく見る、描きたくなる。花に笑われないように必死で描く。

○絵手紙に出会えて幸せ。一日一日無理なく一歩ずつ。

野に咲く一輪の花を愛で、農作業の休息のひとときに絵手紙に書く——。出す人、受け取る人の心が温かく通い合う嬉しい一枚の絵手紙です。

今年度も、間もなく第一回目の絵手紙ボランティアを計画しています。

井戸平左衛門の頌徳碑を訪ねて②

大田町 石 賀 了

終焉の地 笠岡 一上

石見銀山の第 十九代代官だっ たら井戸平左衛門 は、大森に赴任 した翌年の享保 十七年（一七三 二）から、岡山 県の笠岡代官も 十四代として兼 務することにな った。このこと が縁で、大田市 と笠岡市は、ロ ータリークラブ が先んじて友好 縁組みをした後、 平成二年、市同

士が友好都市縁組みをして交流 を続けている。 大飢饉が何とか峠を越し、サ ツマイモの栽培のめども立った 享保十八年四月下旬、併任地で ある笠岡を訪ね、そこで、以前 から患っていた病が悪化。五月 二十六日には大森に帰ることな く笠岡の地で不帰の人となった。 井戸さんの死には、病氣説と 自刃説がある。自刃説は、飢饉 に際して幕府の許可を待たずに 代官所の蔵を開けて、食糧を領 民に与えた責任をとった、とす るものだが、「笠岡市史」による と、亡くなるまで藩医の診察を 受けたら、石見から主治医を呼 びだりして療養 に努めたという 史料があること から、病死に違 いないだろう、 としている。

▷ 威徳寺にある井戸平左衛門の墓



笠岡で亡くな った井戸平左衛 門の墓は、市内 の少し高手にあ

威徳寺の墓

▷ 頌徳碑のある井戸公園



る威徳寺にあり、寺の山門から は笠岡市の町並みや干拓地が見 晴らせる。

「泰雲院義岳良忠居士」の法 名が彫られた約二メートルの高 さの墓は、山門をくぐって境内 に入ったすぐ右手に、静かに立 っている。墓石左側面には「備 後 備中国御代官 井戸平左衛 門正明」と彫られており、笠岡 市の史跡に指定されている。

墓の前には二基の石灯籠が立 っているが、一基は石見の村人 が寄進しており、柱の「石州」 の文字がやつと読み取れる。

威徳寺では大正時代から、命 日の五月二十六日に井戸さんの

遺徳を偲ぶ祭り が盛大に行われ ており、寺に残 っている資料で は近隣から二十 二人ものお坊さ んがお参りし、 岡山県知事など が「祭詞」を述 べたという記録 もある。



◁ 井戸公園の「井戸明府碑」

また、お守りが市民の間に広 まっていた時代もある。サツマ イモを導入して領民を救った井 戸さんをお守りにしていれば食 べ物に困らない、ということ で 「井戸平左衛門のお守り」を身 につける人が多かったと言う。

昨年まで毎年十月には「井戸 公茶会」も開かれ、笠岡のみな らず、岡山市や尾道市などから も、多いときには七百人の参加 者があり、本堂も開放して境内 に三か所の茶席を設けるほどの 盛況だったと言う。

井戸公園の頌徳碑

威徳寺のすぐ裏手には、「井 戸公園」がある。一帯は桜の名 所として親しまれているが、こ の公園は大正時代の初め、地元 の人たちが桜を植樹して作った

もので、現在は市の都市公園の 一つになっている。

東屋やすべり台、ブランコ、 シーソーなどが整備された、幼 児たちの格好の遊び場になっ ており、その真ん中奥に、公園の シンボルのように、高さ六・五

メートルもの立派な「井戸明府 碑」が、昭和十九年に建てられ た。正面には戦争中の食糧難の 時代に、サツマイモの増産を誓 う言葉が彫られている。

笠岡市内には井戸さんにまつ わるものがまたまたたくさんあ る。四十二代の代官の中で、も

っとも慕われ、今でも市民の間 に最も記憶に残っている代官だ と言う。笠岡を訪ねてみて、そ のことを肌で感じる事ができ

た。

続きは次回、ご紹介したい。

井戸平左衛門の 頌徳碑を訪ねて③

大田町 石 賀 了

終焉の地 笠岡 一下一

前号では井戸平左衛門の終焉の地である笠岡市にある「威徳寺の墓」と「井戸公園の頌徳碑」を紹介した。このほかにも笠岡市には井戸さんにまつわるものがいくつもあり、いかに井戸さんが笠岡市民に慕われていたかがわかる。

終焉の地の碑

笠岡市役所の、通りをはさんだ向かいに「笠岡代官所跡」があり、門が残っている。この門は代官所時代のものではなく、明治時代に「小田県庁」が置かれたときのもの。

井戸さんはこの代官所で亡くなったことになるが、現在は笠岡小学校になっていて、門の中には当時の建物などは残っていない。しかし、この門は笠岡小学校の門として現在でも使われており、小学生たちが登下校のたびにこの門をくぐっていると聞くと、何だかうれしい感じがする。

◁小田県庁跡の門。小学生が毎日通う



小学校は、門に続いてグラウンドが広がり、校舎はその奥の一段高手に建っているが、講堂の入り口横に「井戸代官終焉之地」の碑がある。高さ一メートル強の自然石で、昭和二十七年当時の岡山県知事が文字を刻んでいる。

井戸平左衛門の歌

代官所の門の前は、堀を利用した親水公園になっていて、歌の自動演奏機「けんばんくん」が設置されている。足で踏むと音が出る鍵盤があり、自分で演奏もできるが、自動演奏の曲が

◁井戸さんの歌を奏でる演奏機



七曲入っており、その中に「井戸平左衛門さまの歌」もあるのに驚いた。この歌は昭和の初めごろから歌われていたらしく、今でも歌える市民は多いという。歌詞はつぎのとおり。

- 1 不作の年の飢え死にを 救う尊き心より 移し植えにし芋の種 いかで忘れんその恵み おのが命を投げ打ちて
- 2

郷土館の井戸さん

エピソードはまだある。笠岡市立郷土館に入ると、玄関口ビーに白セメント製の井戸平左衛門の像が置かれており、柔らかな表情で、いかにも「笠岡によるこそ」と入館者を迎えているように見える。この像は昭和三十年に、一市民が井戸さんの遺徳を後世に伝えるために彫り上げ、笠岡小学校に寄贈したもの。その後郷土館に移されて展示されているが、取材のために笠岡市を訪れた私を、やさしく出迎えてくれたように思え、百七十七歳のドライブの疲れも癒された。



▷笠岡小学校に建つ「終焉の地」の碑

その後郷土館に移されて展示されているが、取材のために笠岡市を訪れた私を、やさしく出迎えてくれたように思え、百七十七歳のドライブの疲れも癒された。

▷郷土館で出迎えてくれた井戸さんの像



井戸平左衛門の 頌徳碑を訪ねて⑤

大田町 石賀 了

久手町西川交差点の碑

旧大田市内にある井戸平左衛門（以下「井戸さん」）の頌徳碑は六十八基。久手町にも五基の碑があるが、最も人目につきやすいのは西川の、信号のある交差点にある碑だろう。

大きな桜の木の下、プロックで仕切られた一角に玉砂利が敷かれ、ベンチとテーブルまで整備された、なごみの場所だ。

明治三十九年、時の有志「西川の七老人」(右谷竹三郎(定屋)、

井戸明府碑と追善の碑



中村和十郎（工屋）、森井和七（吉野屋）、品川利兵衛（品川）、中村常四郎（竹中屋）、渡邊茂十（釜屋）、渡邊亀作（吉本屋）の七氏が發起人となって建立された碑には「井戸明府之碑」と大きな字が刻まれている。

サツマイモを



桜の巨木に抱かれるように立つ井戸さんの碑

導入して領民を救った井戸さんの遺徳を偲ぶ碑は、不作の年に建てられた例が多いというが、この碑もそんないきさつだった

のだろうか。

自然石で高さは約二メートル、台座も入れると二・三メートルある。桜の木も当時植えられたのか、今では根元の直径が九十センチもある巨木になっている。隣には大正四年に建てられた

「井戸公追善」の碑もあり、「君の恩徳を感じて」として「飢ゆることしらてうき世にくらすなる君が勲の影に住む身は」の歌が刻まれている。

以前からこの頌徳碑は久手町民に大切にされ、七月には毎年盛大に祭りが行われてきたが、八月四日の久手港祭りが始まる

と自然消滅の形となった。

碑の前には一対の石灯籠があったが、この灯籠が平成三年の台風で壊れてしまった。ここから、「井戸さんを見守る会」の活動が始まった。「壊れた灯籠を何とかしよう」との思いで集まった山内保さんほか二十人余りの若者が、灯籠再建のための積み立てを始め、祭りも復活させた。

毎年子どもたちを集めて焼き肉や映画などを楽しみ、時には井戸さんの勉強会をしたこともある。その熱意に応えるように、上区自治会から援助を受けることになり、十年後の平成十四年、見事に灯籠が再建された。同時に、崩れかけていた敷地をプロックで補強し、玉砂利も敷き、擬木のテーブル二基と椅子八脚を備えた公園に整備をした。

「あまり深刻にならないように、また、新しい人が気楽に仲間入りできるように、会の名前は『井戸さんを見守る会』と軽い名前にしたんです」と山内前会長。

今では、以前のようなにぎやかな祭りはしていないが、現会長の渡辺凌さんを初め、「見守る会」のメンバーが集まって、毎年七月二十六日、欠かさず祭



△ 今年7月26日に行われた祭り

りをして井戸さんの遺徳を偲び、公園をきれいにしている。灯籠の除幕式を迎えるにあたって作成された「井戸さんに想いを」の趣意書は、こう締めくくられている。「当時から思えば、何一つ不自由のない恵まれた生活で、今日よりも明日と文化の高まる今日であるからこそ、このお祭りを機会にその恩徳を考えてみてはいかががでしょうか。今に生きる私達のために、そして、未来を担う子供たちのためにも：」

桜の木も大きくなり、春にはひととき美しい花を咲かせるが、交差点という場所にあるせいか、何だか井戸さんが、現代に生きる私たちの交通安全を見守ってくれているように思える。

井戸平左衛門の頌徳碑を訪ねて⑥

大田町 石 賀 了

江津市和木町向ノ浜の 「慶 遺 澤」

今回の紹介はどこか市外の碑を、と想っていた矢先、昨年十一月二十二日の山陰中央新報に「芋代官の功績しのぶ／江津で収穫祭」という記事が掲載された。この記事を手がかりに、江津市和木町の頌徳碑を紹介する。

江津市内（旧桜江町も含む）にある井戸平左衛門（以下「井戸さん」）の頌徳碑は八十基。これは大田市に次ぐ多さと思われるが、江川の東側は石見銀山領なので、大田市と同じ「地」であり、井戸さんの碑が多いのもうなずける。



△ 江津市和木町向ノ浜の「慶遺澤」

研究者も多く、そのうちの一つ「江津市文化財研究会」では、研究誌「石見潟」の第七号（昭和五十六年）で、「江津市の井戸平左衛門頌徳碑」を特集しており、貴重な資料になっている。和木町の碑は、国道九号から一本南に入った旧国道沿いにあり、

研究者も多く、そのうちの一つ「江津市文化財研究会」では、研究誌「石見潟」の第七号（昭和五十六年）で、「江津市の井戸平左衛門頌徳碑」を特集しており、貴重な資料になっている。和木町の碑は、国道九号から一本南に入った旧国道沿いにあり、

新聞報道の催しは、その流れの中で企画されたもの。井戸さ



△「芋もち」づくりに挑戦（和木公民館提供）

明治十一年、地元の小川八左衛門秀行さんが建立した。碑の正面には「慶遺澤」と彫ってあるが、ほかには何も彫ってなく、

んので、感激もひとしおだったことだろう。山協会長は「これからも続けていきたい」と言っている。

江津市の頌徳碑を調べていくと、井戸さん以外の功労者の名前がいくつかの資料に散見された。その一人は渡津の医師青木秀清。サツマイモの栽培が軌道に乗らず増産できない状況を見かね、自ら薩摩（長崎とも）に行つて栽培方法を研究して帰り、地元で指導した。もう一人は松川太田の石田初右衛門。山畑を開墾して栽培を奨励し、イノシシ、シカの被害予防も考案して増産を図つたという。

江津では井戸さんと青木秀清、石田初右衛門の三人を「甘藷の三恩人」と呼んでいるという。

青木秀清の頌徳碑も江津市内に数基あり、渡津小学校前にある碑の前では、毎年秋、小学生も一緒に地域の皆さんが遺徳を偲んでいるという。

実は、和木公民館は、難波利三さんの小説「イルティッシュ号の来た日」の、まさにその船の遺品が展示してある場所です。そのことにも触れたいと思つたが、行数が尽きたので、別の機会に紹介したい。



▷ 渡津小前の「青木秀清」の碑

井戸平左衛門の頌徳碑を訪ねて⑦

「浜の芋太」と「芋神さん」

大田町 石賀了

境港市



△境港市の渡町の「とんど場」に建つ「真砂神」の碑

町に建てられた。以降、



▷鳥取県最古、米子市和田町の碑

鳥取県の弓ヶ浜（米子市と境港市）には「浜の芋太」という言葉がある。幕末に現在の境港市にあった「景山塾」の塾生たちが京都へ行き来し、明治維新に大きな力を発揮、そのスケールの大きい行動力を称賛して塾生を「浜の芋太」と呼んだというが、それ以後、弓ヶ浜で育った男性を指す言葉になった。「浜のいもた通信」というホームページには「浜の芋太」とは、浜でとれた芋を食べながら、弓ヶ浜とサツマイモは切つ



△いも焼酎になった「浜の芋太」

ても切れないもので、過去、サツマイモは弓ヶ浜の人たちの命をつないできた。そのサツマイモは、大森で栽培が始まってから約五十年後の一七八〇年（安政九年）、境村の庄屋黒見幸右衛門が石見銀山領和江の船頭甚右衛門から取り寄せた。三十斤のイモは砂地でよく育ち、またたく間に弓ヶ浜全体に伝わった。享保の飢饉の後五十年ごとに起こった天明、天保の飢饉でも餓死する人はなかつたという。天保三年（一八三二年）、井戸平左衛門の没後ちょうど百年目の、しかも命日月の五月に、弓ヶ浜で最初の頌徳碑が、現在の米子市和田

町に建てられた。以降、

弓ヶ浜では次々に頌徳碑が建てられ、境港市に七基、米子市に四基の碑がある。うれしいことに、これら全ての碑が両市の文化財に指定されており、全部に立派な案内柱が立てられている。境港市で最初の頌徳碑は、和田の碑が建った翌年の一八三三年に渡に建てられた。渡にある日御崎神社の縁を持つてか、出雲大社から碑の文字「真砂神」と碑文をもらっている。碑文はすでに崩落して読めないが、

「とんど場」に移動、台座と鳥居も寄進した。以来、地区の人々は毎年九月に「芋神さん祭り」を盛大に行い、初収穫したサツマイモを供えて、井戸さんの遺徳に感謝している。

（前略）常盤に栄て田豊海幸なき年も賑ひぬるは、井戸氏の功業になむ有りける。（後略）と彫られていたという。その後、この碑は半ば砂に埋もれてしまっていたが、明治九年に松本偵治さんが、高台にあつて神聖な場所とされている

と彫られており、代々近くの「日御崎神社」の宮司さんが祭りをとりしきっている。これまでの取材の中で頌徳碑が神社とつながったのは初めてだ。たいていは重要な道路の路傍か、お寺の境内にあることが多く、碑文も井戸さんの法名が彫られていることが多い。日御崎神社の門脇紀文宮司さんも、井戸さんの碑が神社に属するのは珍しいのではないかとおっしゃっていた。

米子市の迎接院というお寺にも井戸さんの碑があるが、ここでも、毎年欠かさず井戸さんの祭りをされていると聞いた。

米子から境港まで砂地が続く弓ヶ浜で、米などが思うように収穫できなかつた時代にもたらされたサツマイモは、浜の人たちにはそれこそ「砂の神」と称えるにふさわしい宝物だったことだろうと、「真砂神」と大きく、力強く彫られた碑の文字を見ながら思いを馳せた。

井戸平左衛門の頌徳碑を訪ねて⑧

瀬戸内では下見吉十郎が「芋地蔵さん」

大田町 石賀了

広島県
生口島

瀬戸内海の島々には、井戸平左衛門の頌徳碑はわずかに一か所、広島県尾道市(旧因島市)の生口島だけにある。井戸さんの

碑を調べた最も詳しい資料である宮本豊さんの記録には、広島県には一基も存在しないとされているので、広島県全体でもこれ一基だけかもしれない。ところが、「芋代官」ではなく「芋地蔵」の頌徳碑は二十基以上ある。「芋地蔵」とは、大三島に生まれた下見吉十郎をまつたもの。下見は、井戸さんが大森にサツマイモをもたらした享保一七年(一七三二年)より二十一年も前の正徳元年(一七一二年)に、薩摩国からサツマイモを持ち帰って大三島で栽培に成功、瀬戸内海の島々で次々に栽培されるようになった。井戸さんがサツマイモを導入するきっかけとなった享保の大飢饉のときには、瀬戸内海ですでにサツマイモは広く普及しており、島々の中で餓死した人は皆無だったという。

私は、サツマイモを薩摩から持ち出したのは井戸さんが最初の人だと思いついていたが、今回の取材でそうでなかったことが分かり、かなり驚いた。調べてみると、石見地方より前に、瀬戸内以外でも長崎県、和歌山県、京都府で栽培が始まっていたという資料もある。

では、なぜ生口島に井戸さんの碑があるのか。生口島の碑は、因島洲江町の曹洞宗正善寺(小早川憲章住職)の境内にある。墓石型で、約二メートルもある立派なものだ。

正面には「泰雲院殿儀岳岳忠良居士」とあり、両側面に芋地蔵である下見吉十郎とその妻の戒名が刻まれている。井戸さんの戒名は「泰雲院義岳忠良居士」なので、少し誇張されているようだ。

文久三年(一八六三年)、当時尾道で曹洞宗の集まりがたびたびあり、そこで正善寺の住職が井戸さんの墓がある岡山県笠岡市の威徳寺の住職から井戸さんの話を聞き、村の人々に相談した結果、下見吉十郎とともに井戸さんの遺徳も称えようと、こういう形の頌徳碑になったとい

う。正善寺では毎年八月三十日に芋地蔵供養祭が行われており、今年も盛大に行われた。午後七時から供養のお勤めがあり、読経の後、集まった地域の皆さん約五十人が一人ずつ焼香。七時半からは供養踊りとして盆踊りが踊られた。例年だと夏休み中の子どもたちも参加して境内が狭いほどの人が踊るといいますが、今年はずでに二期期が始まっており、子どもたちの姿は少なかったものの、境内に設けられたやぐらの上で鳴らされる太鼓と口説きに合わせて、大勢の皆さんが輪になってぎやかに踊った。少し高手にある寺の上で鳴らされる太鼓の音は、すぐ眼下に広がる瀬戸内海の夜の闇に響

き渡っていた。お接待として、参加した皆さんに素麺と、ふかしたサツマイモが配られた。昔は地元でとれた初掘りのイモが供えられたが、今ではイノシシの被害もあってサツマイモの栽培は盛んではなく、また時期も早いので、イモは購入したものだと話されていた。

参加されていた何人かの方に尋ねてみると、下見吉十郎の名前はご存じだったが、井戸平左衛門のことを知っている人はなかった。少し残念な気がしたが、瀬戸内の皆さんには、それでいいと思ったし、瀬戸内に一基だけども、井戸さんの名前が刻んである石碑があったことに感謝したい気がした。

▷ 正善寺で行われた芋地蔵供養祭



△ 正面に井戸さん、左右面に下見夫妻の戒名が刻まれた頌徳碑

井戸平左衛門の頌徳碑を訪ねて⑨

市内の井戸さんの碑―特徴的ないくつか

大田町 石 賀 了

今回は市内の碑を調べてみた。最も信頼できる資料である宮本豊さんの資料によると、大田市内には旧大田市に七十基、温泉津町に二十三基、仁摩町に五基合わせて九十八基の碑があることになっている。ところが、温泉津町誌などにこの一覧表にないものがあったので、大田市内には約百基の頌徳碑があると思われる。そのうちの特徴的なものをいくつか紹介する。

最も東は朝山町仙山の碑

大田市で最も東に位置する井戸さんの碑は、朝山町仙山にある。ただし、地図上では三瓶町などの東端の碑は三瓶町上山の専勝寺にあるものということになる。だが、何となく東の端となると



▷最も東にある朝山町仙山の「井明府恩澤碑」

ここでは朝山町の碑を勝手ながら東端とさせてもらう。朝山町の井戸さんの碑は島津屋ではなく、仙山と朝倉に一基ずつある。そのうち東側にあるのは仙山の碑で、

仙山公民館や花雪神社の近くの道路沿いに建っている。墓石型で台石が四段積まれており、高さは約二メートル。碑石には「井明府恩澤碑」と刻まれている。安政四年（一八五七年）の建立。

最も西は温泉津町福波の吉浦に

大田市の最西部は温泉津町福波。井戸さんが最初に領内に配った種芋の保存に、たった一人成功した松浦屋と平衛がいた地域である。福波まちづくりセンターを訪ねて教えてもらい、一番西の集落である吉浦に向かった。福波には現在の集落ごとにはほぼ一基ずつ建てられており、大田市の西端にある碑は温泉津町福波の吉浦の碑がそれである。



▷最も西の温泉津町福波吉浦の「泰雲院殿義岳良忠居士」の碑

最近整備されたというコンクリートの広場に、台石が二段積み、自然石に「泰雲院殿義岳良忠居士」の文字が隷書で力強く彫られ、文字の下に蓮の花も彫られている（温泉津町にはなぜか蓮の花をあしらったものが多い）。建立年代は不明。高さは全体で二・四メートル。碑の前の道路に建つと吉浦の集落を見渡す絶好の場所であり、何だか井戸さんの碑が、吉浦の皆さんを見守っているようにも思えた。

最古の碑は

温泉津町湯里

文政11年（1828年）

市内で最も古い井戸さんの碑は、温泉津町湯里にある文政一一年（一八二八年）に建てられたもの。

井戸さんの碑は約五百基あるが、建立年代が不明のものが多く、また、明治以降の碑の中には再建されたものも多いので、最古の碑は正確にはわからない。したがって、湯里の碑も、「建立年代がわかるものの中では最も古い」としか言いようがないのだ。

井戸神社例大祭



△にぎわった昨年の井戸神社例大祭

昨年十一月三日、大森町の井戸神社で例大祭が挙行された。毎年五月と十一月の二回行われており、昔は境内で相撲大会も開催されるほどにぎやかな祭りだった。ここ数年、再びお参りする人も増え、山盛りにされ、井戸さんの遺徳に感謝の気持ちがささげられた。

この碑は、西田に向かう県道沿いの、石見銀山道沖泊道にほど近い場所に建っている。道路から七十五センチ高いところにきちんと場所がしつらえられ、台石は二段。その上の自然石に「泰雲院殿義岳良忠居士」と彫られ、文字の下には蓮の花も彫られている。台石からの高さは二・二メートル。少し苔むしていて、碑石の右側に彫られている年代は読みにくくなっているが、かすかに「文政十一年五月建立」と読める。左側には村役人のほか三人の名前も彫っており、



▷ 最古の温泉津町湯里の「泰雲院殿義岳良忠居士」の碑

おそらく村中の力を集めて建てられたのだろう。温泉津町の領徳碑を調べているうちに不思議なケースに出会った。石碑群に交じって「井戸神社」が二か所あると書かれているのだ。地元の人に尋ねたり、いろいろ調べていくと、一つは福光八幡宮に境内神社として祀られ（祠もある）、もう

一つは井田の太田八幡宮に合祀されたものということが分かった。大森の井戸神社から分祀したものだろう。温泉津町小浜の厳島神社にも井戸さんの領徳碑

最新は大田町の明善寺に（昭和30年）

最も新しいものは、と調べてみた。再建でないものの中で最も新しいものは、昭和三十年に建てられた、大田町の明善寺にある碑である。

サツマイモに感謝するために戦前行われていた「芋法要」が、食糧が豊かになるにつれて行われなくなってきた昭和三十年、もう一度井戸さんへの感謝の気持ちを思い出そうと、明善寺の檀家の皆さんが発起され建てられたもの。大きな自然石の碑石

が建っており、温泉津町では井戸さんは神様と呼ぶにふさわしい遺徳のある人というふうに考えられてきたようだ。

当初は境内の経堂横に建っていたが、昭和六十三年の境内整備の際に、人の目に触れやすい場所にと、新たに作られた自動車用参道沿いに移設された。その層々としていた。



▷ 明善寺の「井戸正朋公碑」

の際、二段の台石の下に広く積み石をし、植栽を行い、後に石灯籠も設置された。

公民館（現まちづくりセンター）はすばらしい

今回の取材で改めてわかったこと。それは公民館（現まちセン）はすばらしいということである。領徳碑の一覧表には地区名しか書かれていないものが多い、場所を探すのは至難の業。そこで頼ったのがまちセンだったのだが、これが大正解。朝山町ではカラー刷りの「朝山町の石碑」という立派な冊子ができていたし、静間町と福

波では大きな地図に写真を入れて展示してあった。五十猛町では前館長さんがこまめに調べて冊子にまとめておられたし、湯里では前館長さんが町の歴史を立派な本にして自費出版されていた。どのセンターでも、突然の訪問にもかかわらず懇切に教えていただいた。井戸さんの碑も宝だが、公民館こそが地域住民の宝だと、あらためて思い、そのことに感動さえ覚えた。

井戸平左衛門の頌徳碑を訪ねて⑩ 浜田市には井戸さんの銅像があった

大田町 石 賀 了

井戸さんの頌徳碑を、例によつて宮本豊さんの資料で市町村別に調べていくと、浜田市が百三十一基と、群を抜いて多い。二番目に多いのが大田市で百基だから、浜田市の碑がいかに多いかがわかる。これは、一市四町村での合併が関係していて、旧浜田市は五十七基なのだが、四つの旧町村にそれぞれ十七から二十一基の頌徳碑があったのだ。ただ、四つの町村にこれだけの頌徳碑があることも特筆すべきことだろう。



△近重翁が建立した井戸さんの銅像(現在は無い)
(浜田市発行「明治・大正・昭和 写真集はまだ」より)

今回、浜田市の井戸さんの碑を調べるに当たり、浜田市文化財愛護会が年一回発行している「亀山」誌に「那賀・浜田の泰雲院殿碑を巡拝して(その一)三」を寄稿された河田竹夫さん



▷高野町後面の「泰雲院殿墓」

と出会うことができ、多くの情報をいただいた。河田さんによると浜田は昔から米がよくできる土地柄ではなかったようなので、サツマイモをもたらしにくれた井戸さんに感謝する気持ちが強かったのだろう。

河田さんには高野町後面にある、日本で唯一この周辺にだけ産出されるという六百万年前の黄長石霞石玄武岩(島根県指定文化財)という非常に硬くて加工しにくい石で建てられた碑まで案内していただいたり、市内

最古で天保三年(一八三二年)に建てられた上府町荒相の碑を紹介していただいたが、中でも最も驚いたのは、井戸さんの銅像が建てられていたことだ。これは、江津の跡市の出身で後に浜田に住み、明治十六年まで浜田県や島根県などに勤めていた近重小次郎という人が

建てたもので、三重観音山、現在の浜田市杉戸町の小高い丘の上(今宮神社の向かい側)にあった。残念ながら銅像は昭和十八年に戦争

のために供出されてなくなった。今では台座もなくなっているため、当時の様子を知ることはいかないが、そのそばに、大正十四年に建てられた「近重翁記念碑」が残っている。

その碑文によると、近重翁は浜田町の篤志家二人から山林の永久無償貸与を受け、山頂を開拓して建てたという。「翁熱誠克苦如何ナル風雨寒暑ト雖モ東奔西馳懇家有志ノ義捐ヲ募リ苦心經營遂ニ(大正八年)落成ノ功ヲ奏ス」。土地を借り、開墾し、東奔西走して浄財を集めて遂に完成した。その開墾には町からの石段の建設も含まれ、現在でも「こんやまち商店街」から登る百五段の石段は残っている。銅像は今では影も形もないが、その姿は浜田市制四十周年記念の「明治・大正・昭和 写真集はまだ」に残っている。後ろに人の姿が二人見えるが、そこから推測すると台座を含めて五メートル以上はあったと思われる。



▷近重翁が発行した井戸さんの肖像軸

浄財を集めるために、近重翁はまた、井戸さんの肖像画の掛け軸を作成し、販売した。幅十二、高さ三十二センチメートルの小さなもので、河田さん提供のものが、浜田市浜田郷土資料館に保存されている(写真左)。

同館が修理の際に開いたところ、一番下の軸棒が巻いてある部分に「明治三十六年発行/近重小次郎」と印刷されていた。印刷されてから銅像が完成する期間だけでも十七年。たった一人で井戸さんの「国民永遠保救ノ恩沢追謝」するために銅像を完成させた近重翁の執念もいえる思いはどこからきたのか。近重翁に関する情報は「近重翁記念碑」と写真以外は入手できなかったのが残念だ。

しかし、この小さな肖像画が仏壇にかけられていた家も多く、仏壇ではなくても、「家のどこかにかけてあったと思う」という話も聞いた。上府町荒相の碑でも「毎歳忌」が行われているが、浜田市内には今でも、国分町の金蔵寺をはじめ、芋法座、芋法事が行われている寺院が多くあり、そのときに朗読する井戸さんの遺徳を記録した「暉恩伝」が残っている寺院もあるという。